



やませみ

てんらんざん 天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

小さい小さい花びらを見たか
わづかなわづかな人ごも見たか
触れるものにはすばやくくつき
行方はどこか心西しない
降りたところが落ち付き先
運道にまかせて根をはれる
すそにおみやげ草の宝だらけ
秋の野歩き、帰り道



もくじ
報告・県都市計画公聴会に参加
天覧山・多峯主山の間伐材を活かす
「木馬になった間伐材…その後」
ふるさと散歩特集
リレーエッセイ／「台風に学ぶ」
日よう日ふるさと散歩のおしらせ
編集後記

FROM
EDITOR

編集室
から



●築二百五十年を越す、古い茅葺民家が私の仕事場です。この家は柱も梁も囲炉裏の煙にいぶされ、磨きこまれて黒々と光っています。屋根は苔むし、雨に濡れると苔の緑が生き生きとして見えるのがなんともたまらない魅力です。●この民家で仕事を始める前、半年かけて痛んだ箇所を修理しました。床下の束や大引き、漆喰壁の下地の竹小舞、骨の折れた建具など、補修のために取り壊されて出てくる廃材は、土と竹と木と縄、どれも自然の素材ばかり。あるものは裏山に捨て、土に還り、またあるものは囲炉裏の薪として寒い冬を心から暖めてくれるエネルギー源として生まれ変わりました。先人の築いた建築文化にはただ感心するばかりです。●それに比べ現代の建築はどれだけの廃材を土に還すことができるのでしょうか？

やませみ職人

日よう日ふるさと散歩

当会では、天覧山周辺の自然に親しんでいただくために毎月「ふるさと散歩」を開催しています。お気軽にご参加下さい。

◆十月二十六日（日）

「秋だ！やつ田の稲刈りだ！の巻」

◆十一月九日（日）

「秋の河原でムカゴ」飯の巻」

◆十二月一日（日）

「冬の愉しみ リース作りの巻」

昼食後、リース作りを行います。

いずれも左記のとおりです。

*集合 能仁寺山門前 午前九時半

*持ち物 お弁当・飲み物

*動きやすい服装でおいでください。

◆二〇〇四年一月一日（木・元日）

「平和を願って初日の出の巻」

*集合 能仁寺山門前 午前六時半

*各回とも参加費は保険料一〇〇円

☆共催 はんのう景観トラスト

（財）埼玉県生態系保護協会

飯能名栗支部

☆詳しくは事務局までどうぞ。



やませみ37号

二〇〇三年十月一日発行

●編集・発行

天覧山・多峯主山の自然を守る会

●事務局／浅野正敏

0429（74）1691

埼玉県飯能市柳町18-17

申し込み用紙・「やませみ」は

左記にあります。

谷口眼科／銀河堂／Cafe裏



「やませみ」へのご意見をお寄せ下さい。投稿もお待ちしております。

URL=http://tenranzan.room.ne.jp e-mail=tenranzan@room.ne.jp

会員の募集しています。



報告

飯能市都市計画公聴会が開かれました

8月21日飯能市市民会館に於いて、

現在埼玉県が策定している『飯能都市計画構想(案)』について、市民の意見を述べる公聴会が開かれました。県の都市計画担当課の方8名程、市より5名程、一般市民の方6名が公聴しました。

公述人は4名で、たまたま皆「守る会」の会員でしたが、発表された意見は、以下のような内容で、いずれも「守る会」がこれまで繰り返ししてきた提言の要点を、参加者それぞれの視点より

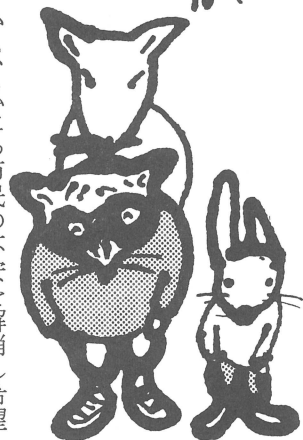
述べたものでした。

○「天覧山・多峯主山」山中の市街化区域(武蔵丘団地予定地)の都市計画法に基づいた調整区域への逆線引きを提言

○武蔵丘団地開発の一部削減と、当地の自然保護・保全を提言

○県民休養地構想の推進、団地開発による街づくりから自然公園都市への転換を提言

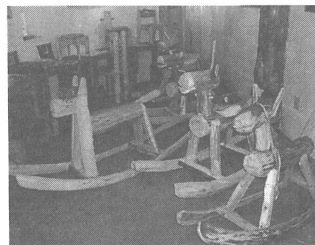
この都市計画案は、今後10年の飯能市の街づくりに深く関わるものです



から、私たち市民の不安を解消し希望が持てるものであってほしいと思いますが、残念ながら現在構想中の案は、住宅団地都市プラン破綻の解決策と自然環境都市としての具体案には乏しいものでした。そこで、今回このような公開の場で、市民からの提言を県や市に伝えることができたことは良い機会であったと思います。ぜひとも今後の計画案の中にこれらの提言が具体的に反映されていくことを願っています。

木馬になった間伐材

天覧山・多峯主山の間伐材を活かす ◎その後



ズラッと勢ぞろいの五体の木馬

天覧山裏山の杉・檜の間伐材を行ったことは前号でもお知らせしました。その間伐材はボランティアが町へ運び出して、地元の小学校で皮むき体験を行ったり、商店街ギャラリー(ゼフィルス)でミニチュア木馬づくりを行い、多くの子ども達に木に触れる機会を与えることができました。

今回、毎年行われている商店街の夏のイベントフェアに木馬づくりが加わった事と、「木と遊ぼう」「木工教室」なども同時開催され、地元産西川

材アピールの広がりを見せました。その事は商店街と林業双方の活性化への足掛かりを作ったと思えます。市民に呼び掛けてワークショップを開催し、これまでに5台の木馬が完成しました。その後、飯能市役所ロビーにて木馬づくりを紹介するパネルと木馬を展示。商工会館玄関前に常設展示を予定。商店街のいくつかの店先にも木馬が置かれる事となりました。

山に放置されてゴミになるところであった間伐材が木馬に生まれ変わった事により、木材資源の活用以上のものとなりつつあります。少しづつではありますが、木のぬくもりが感じられる街になって行けばと願っています。

※この木馬づくりをきっかけに10月14日(土)19日の間ギャラリー・ゼフィルスで『間伐材の活かし方を考えよう』を開催します。木馬の展示や木工作家や作業ボランティアとの意見交換会を予定。どなたでも参加いただけます。

※詳しくは浅野0429(74) 1691 早瀬0429(77) 1890まで。

特別展『里山の自然』

期間 2003年10月4日(土)~12月7日(日)
場所 埼玉県立自然史博物館(長瀬町)

県内各地に残されている里山の自然や、市民による保全活動、里山の資源を有効活用するための様々な提案が紹介されます。天覧山・多峯主山の自然や、守る会の活動も展示されます。秋の一日をぜひ長瀬でお過ごしください。



「2人乗りもへっちゃら!」

特集
日よう日るる散歩

1993 年、飯能河原に高層マンション建設の計画が立った。その時、景観を守ろうとする市民運動が起き、大きな力となって景観が保全された経緯があります。



そこから始まった市民活動「はんのう景観トラスト」によって、今後は飯能の景観を壊すことのないよう
もっと郷土を良く知ろうと「ぶらり・はんのう・ふるさと散歩」が企画され、
実行されました。ところが、その後すぐに(1995年)飯能の象徴である天覧山・
多峯主山一帯の開発計画があることが知らされました。急遽「天覧山・多峯主山の自
然を守る会」を結成、広く自然環境の保全を訴えかけてきました。
ただ、このすばらしい環境が身近にありながら、あまりにも多くの市民がそのことを
知らない事がわかり、毎月1回「ふる里散歩」をこの地に限定して実施することとし
ました。ひとりでも多くの人にこの地のすばらしさを知ってもらう事と、大切にしてい
くという意識を持ってもらうために、それ以来欠かさず行っています。
今号では最近の「ふる里散歩」でどんなことが見えてきたかを報告します。



6月
ホタルの観望会
の巻

今回の観察会では気温、湿度ともに良かったためか、ホタルの里に着く前からたくさんのホタルが飛びまわっていました。風の音やカエルの声などを聞きながら、ホタルのやわらかい光を見るのとても気持ち良かったです。今回一番印象に残っているのは、2匹のホタルが手の中で光っていたことです。ゲンジボタルは手の中で元気に光って、すぐに飛んでいってしまいました。でも、ヘイケボタルは手の甲にのり薬指の付け根にとまって光っていたので、まるで指輪のようでした。そしてそれは本物の指輪よりずっときれいで、とても良い思い出になりました。

たくさんのホタルが飛びまわっているのもきれいだっただけで、飛びまわったり、飛ばずに木にとまっているのを見ると、まるでクリスマスツリーのようでもきれいでした。ホタルたちが作った「ホタルのクリスマスツリー」は、電気で光る電球の光よりあたたかくてやさしい光を出していて、なんだかすごく感動しました。

今回の観察会では、ゲンジボタル・ヘイケボタルともにたくさん見る事ができました。普段なかなか見ることに

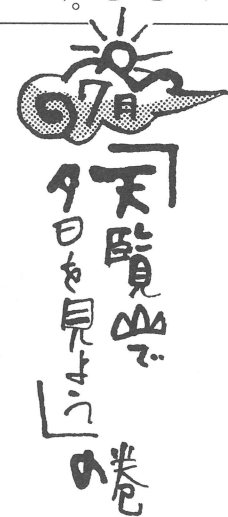


7月27日
 天覧山で
 夕日も見えた
 美杉

この8月に飯能市、それも天覧山の
 すぐ麓に引越してきました。引越し前
 の7月27日、日曜日ふる里散歩に初
 めて参加しました。夕方5時に集って、
 さあ登るのかと思いきや、入口の公園
 で今年初めてニイニゼミが鳴いてい
 る、ということでもまずはセミ探し。鳴
 声を頼りに親指の先ほどの小さな蟬を
 発見。その後もこの木のまわりでいろ
 いろ発見していて、一向に山に向う気
 配がない。登り始めてもきのこや宿り
 木の花を発見しては立ち止る。全然先
 を急がない山歩きスタイルに接して
 私にはそれが新鮮でした。

そして天覧山の裏手、もとは田んぼ
 だったという湿地帯。周りは木立にか
 こまれて、そのすぐ向うに町があると
 は思えない、生活の時間からも町の喧
 噪からもはなれて迷い込んだような不
 思議な空間。

美杉台中学校3年 原田千鶴

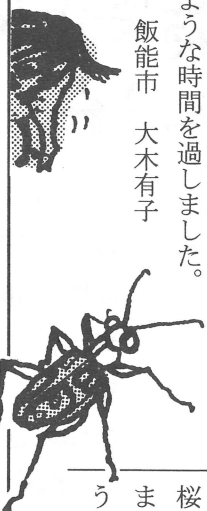


ができないようなたくさんのホタルを見ることできて、とても良かったと思います。ホタルの里でいつまでもたくさんのホタルが見られるように、自然を守ってあげたいと思います。

美杉台中学校3年 原田千鶴

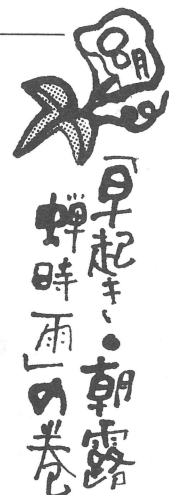
やませみ 37 号(2003. 10. 1)

又マトラノオ、アキノウナギツカミ
……など初めて名前を聞く植物。「あ
の辺り、草が低いところはイノシシの
子が走り回って遊んだ跡です」なん
て説明を聞くと、ますます遠いとい
ろへ来た気分になる。暗がりの中でひ
とだけ光っている蜜をみんなで見る
懷中電灯で木の蜜を吸っているカナブ
ンを照らしてみる。ほとんどが皆初め
て顔を合わせた人なのだけれど、2人
の男の子を含めてみんな子供に帰った
ような時間を過しました。



台風一過、8月10日早朝のふる里散歩に参加しました。早朝のためか参加者は守る会スタッフの他に市内の中学生二人のみでした。

嵐の後ということで、山道には無数の小枝が散乱しており、道を塞ぐアオハダの倒木を跨いで越えました。大木が引きちぎられぶら下がっていたり、桜の木が根元から捻り折れていたりしました。坂道では雨水が相当流れたように、土を削った跡が残っていました。



カル)を示している。波しぶきが容赦なく船橋を襲う。雨と風と波が、3700tの帆船を木の葉の如く揺らす。船長以下、乗組員と実習生の、生死を賭けた台

飯能市に移り住んで2年。自然に恵まれたこの地を「終の棲家」と決めて妻と引越してきた。

今年も、繰り返される台風情報を見ながら、かつて洋上で体験した自然の凄さ怖さ、また素晴らしさを思い出す。若い頃のこの経験から思うことがある。

私が帆船実習生として乗組んだ練習船「海王丸」は1963年5月中旬、横浜港から一路カナダ、バンクーバーへの途についた。将来乗組む外航船の安全航海に資するため、汽船全盛の時代に、帆走という原点に戻った航海を体得する為である。

往路台風に遭遇した。船の気圧計はぐんぐん下がって960hPa（ヘクトパス

エ レ イ
ウ リ
セ
イ
山
風
に
学
ぶ



風との戦いが始まった。ついに暴風圏内に入ったのは6月10日であった。動くものは全てロープで固定。帆も嵐のための帆を除いて全て畳んだ。万全の準備が整えられた。実習生にとって乗船後初の試練

ては居られない。安全とは聞かされていてもとても生きた心地はないが乗組員に動揺はない。テキパキと指令が繰り返され機敏な動作がそれをフォローする。実習生も負けてはいられない。無我夢中で

今回の台風は、山の中では相当な威力を発揮したものだと思われます。

多峯主山の山頂では、台風が絡め取っていった天空の雲や塵芥のない清澄な空に、八が岳・丹沢山系の山々がはつきりとスカイラインを描いていました。奥多摩の大岳山、御前山がいつもよりも驚くほど近くに感じられ、稜線の間からは、富士山の山頂部分がくつきりと姿を現しました。参加した中学生に双眼鏡を渡すと、接眼レンズにデジタルカメラを添えて、富士山の写真を取り込むことができたようです。挨拶



8時くらいでしようか、ハイカーと男の人が蜘蛛のように岩をよじ登って来るのに遭遇しました。奥武蔵のガイドブックには、この天覧山・多峯主山のコースが、ハイキングだけでなく岩登りの初心者用コースとしても紹介されています。こうしたコースが市内にあるということは大変貴重なことで、こうした台風の直後などに訪れると、また違った自然の姿を見ることができそうです。飯能駅からも歩いて訪れることができるのですから足繁く訪れて貰いたいと思います。

守る会 会員 丸山 隆

を迎えることになった。波とうねりは30mを越すと思われる。船は上下左右と絶え間なく大きく揺れ続ける。マストはギィーと軋む。何かに掴まらないと立つ

体が動く。ようやく、気圧計の針が980から990hPaに上がり、暴風圏を脱した。22時間あまりの大試験。準備と闘志。臨機応変な対応の勝利であった。今年、台風が来て長い梅雨、そして

また台風と自然災害の当り年である。日本のみならず、ヨーロッパや中国でも、地球の自然界に異変が起こっているようだ。人間が住みやすい、自然も穏やかな営みをしてくれる環境であってほしい。今出来ることをみんなの力で即実行の「おもい」が強い。ささやかながら、私に今できることを積重ねてゆくことが、環境への貢献だと思っている。

守る会 会員 山田 学